

<p>研究代表者</p>	<p>所属学系・職名 法律・政治学系・准教授 氏 名 林 嶺那</p>
<p>研究課題</p>	<p>混合研究法を用いた公務員就業意図に影響を及ぼす要因に関する研究</p>
<p>成果の概要</p>	<p>本研究の目的は、公務員への就業意図がどのような要因に影響を受けているのか、そうした影響はどのようなメカニズムで生じているのか、を明らかにすること、ないしその解明に向けた準備作業を進めることである。第一の目的()を達するために、-a 大学生を対象としたアンケート調査をもとにどのような要因が公務員の就業意図と相関を有しているのかを分析し、-b コンジョイント実験によって因果的な推論を行うための研究デザインを具体化した。-a でデータとして用いたのは、明治安田生活福祉研究所が 2010 年に行った「大学生に関する意識調査」である。分析の結果、以下のことが明らかになった。公務員志望者が他の業種を志望する者に対して就職する組織に対して望むことは、安定性、労働時間の短さ、福利厚生の水準の高さ、男女格差の小ささ、社会貢献ができること、仕事の負担が軽いこと、転勤が求められないことなどである。逆に、組織の知名度、能力やスキルを発揮する機会に恵まれていること、仕事が面白いことなどは、他の業種を志望する者よりも重視していない。次に、仕事内容について公務員志望者が他の業種の志望者よりも望んでいることは、仕事の影響力の大きさ、社会貢献が可能なこと、チームで仕事を行うことなどである。逆に他の業種の志望者よりも重視していなかったことは、興味をそそるものであること、創造性を有すること、正しく公平な評価が得られることなどであった。ただし、こうした差異は観察されたものの、公務員志望者と他の業種志望者で、組織や仕事に求める内容には大きな違いはなかった。</p> <p>こうした知見をもとにコンジョイント実験(-b)のデザインを行った。コンジョイント実験とは、いくつかの属性において異なる特徴を持つ複数のプロフィールを実験参加者に提示し、その選択を求めることによって、それぞれの属性が参加者の選択に及ぼした影響を、統計的因果推論の枠組みで正確に推定することのできる手法である。コンジョイント実験を行うためには、意思決定に影響を及ぼす属性を適切に特定しておく必要がある。-a で得られた知見をもとに、公務員の志望動機に影響を及ぼしうる組織、仕事内容に関する属性を特定し、具体的なプロフィールの設計を行った。こうしてコンジョイント実験を実施するための準備を完了した。</p> <p>第二の目的()を達するために、公務員への就業意図に関する Q 方法論を用いた研究の準備作業を行った。Q 方法論とは、人々が有する主観的な考え方(subjectivity)に焦点を当てて、その中から主要な視点を抽出することを目的に考案された、定性・定量の両面を加味した研究手法である。公務員志望者と民間企業志望者の二つの群に対して、職業選択において重視するものに関する Q 方法論調査を行う準備を筆者は行った。具体的には、-a の結果をもとに Q セットと呼ばれる、人々の考え方を総体的に明らかにするためのアイテムの束を作成した。この Q セットを一定の分布に従って並べる作業を Q 分類と呼ぶ。この Q 分類を通じて定量的なデータを収集するとともに、調査協力者に対して</p>

<p>成果の概要</p>	<p>インタビューも行う。インタビューにおいては、Q分類データをもとに、どうしてある要因を重視するのか、逆に、なぜある要因をあまり重要であるとは考えないのか、という人々の認識の細かな部分に踏み込んで調査を行う。こうして定性・定量の両面から、公務員志望者と民間企業志望者の認識の差異と、そうした認識が生み出されるメカニズムを精彩に明らかにする。こうした準備作業を整えることができた。</p>
--------------	--